

■ ひとつの屏風が、日本とオーストリアの歴史と音楽をつなぐ ■

国際文化交流「豊臣期大坂図屏風コンサート」を開催

～ 史上初！緞帳を下ろしたままの演奏や浄瑠璃三味線とオーケストラの共演 ～

【日時】8月9日（火）18：30開演 【場所】フェスティバルホール（大阪市北区）

関西大学ではこのたび、創立130周年事業の一環として、ひとつの屏風をテーマに本学学生とヨーロッパのプロの弦楽団が共演する国際文化交流「豊臣期大坂図屏風コンサート」を8月9日（火）18：30よりフェスティバルホール（大阪市北区）にて開催します。

本コンサートは、これまで本学とシュタイヤマルク州立博物館ヨアネウム（現 ユニバーサルミュージアムヨアネウム）、大阪城天守閣の3者で共同研究を進めてきた「豊臣期大坂図屏風」の縁に基づき、大阪およびオーストリア・グラーツの両都市において開催するクラシックコンサートです。グラーツ公演は、8月1日に世界遺産であるエッゲンベルク城で実施され、200名を超える観衆を魅了しました。大阪公演では、グラーツ・フェスティバルストリングスによる大坂図屏風をテーマにした新作の初演に加えて、関西大学交響楽団、関西大学グリークラブ、関西大学混声合唱団ひびきとの共演を行う、大阪から世界に向けて高度な文化力を発信するコンサートです。会場であるフェスティバルホールの緞帳には、この大坂図屏風が描かれており、本格的なクラシックコンサートでは初めて緞帳を下ろしたまま演奏を行います。

当日は、3部構成で大坂図屏風の歴史や魅力をお伝えするとともに、壮大なオーケストラの音色を堪能いただけます。第1部では「豊臣期大坂図屏風」に関するセミナーを行います。第2部は、グラーツ・フェスティバルストリングスによる演奏で、「豊臣期大坂図屏風」をテーマとする新曲を国内初披露します。第3部では、同楽団と本学交響楽団、グリークラブ、混声合唱団ひびきが共演します。

つきましてはご多忙の折恐縮ですが、当日の取材についてご検討をよろしくお願い申し上げます。



豊臣期大坂図屏風（複製）

記

- 【日時】 8月9日（火）18：30開演 <報道受付/17：30> ※下記タイムスケジュールは予定
 〈第1部〉 18：30～19：00 関係者挨拶、バーバラ・カイザー博士（エッゲンベルク城博物館主任キュレーター）による「豊臣期大坂図屏風」に関するセミナー
 〈第2部〉 19：00～20：00 グラーツ・フェスティバルストリングスによる演奏
 「豊臣期大坂図屏風」をテーマとする新曲を国内初披露
 〈第3部〉 20：00～21：30 グラーツ・フェスティバルストリングスと関西大学交響楽団、関西大学グリークラブ、関西大学混声合唱団ひびきによる共演

【場所】 フェスティバルホール（大阪市北区中之島2-3-18）

【その他】 会場内ホワイエに「豊臣期大坂図屏風」のレプリカ（縦182cm×横480cm）を展示します。

以上

※取材をご希望の方は、お手数ですが8月8日（月）までに下記お問い合わせ先へご連絡願います。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課

担当：石田、寺崎

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-1131 Fax.06-6368-1266
 www.kansai-u.ac.jp

この伝統を、超える未来を。



■創立 130 周年記念事業 国際文化交流「豊臣期大坂図屏風コンサート」開催概要

【日 時】 8月9日（火）18：30 開演 <報道受付／17：30>

【場 所】 フェスティバルホール（大阪市北区中之島 2-3-18）

【内 容】 これまで本学とシュタイヤマルク州立博物館ヨアネウム（現 ユニバーサルミュージアムヨアネウム）、大阪城天守閣の 3 者で共同研究を進めてきた「豊臣期大坂図屏風」の縁に基づき、大阪およびオーストリア・グラーツの両都市においてクラシックコンサートを開催するものです。大阪公演では、グラーツ・フェスティバルストリングスによる大坂図屏風をテーマにした新作の初演に加えて、関西大学交響楽団、関西大学グリークラブ、関西大学混声合唱団ひびきとの共演を行う、大阪から世界に向けて高度な文化力を発信するコンサートです。会場であるフェスティバルホールの緞帳には、この大坂図屏風が描かれています。
（ご参考：<http://www.kansai-u.ac.jp/ku130/concert/>）

【演 奏 者】 グラーツ・フェスティバルストリングス
関西大学交響楽団、関西大学グリークラブ、関西大学混声合唱団ひびき

【見どころ】

①「見せるコンサート」

このコンサートは大阪とオーストリア・グラーツの両都市を結ぶクラシックコンサートであると同時に、エッゲンベルク城で見つかった豊臣期の大阪城とその城下を描いた屏風の美しさを堪能してもらうのも大きな狙いです。第 2 部では、この屏風を原画としたフェスティバルホールの巨大な緞帳を下ろしたまま、国内初披露の「豊臣期大坂図屏風」をテーマとした新曲を演奏します。本格的なクラシックコンサートにおいて、緞帳を下ろしたままの演奏は前例がありません。

②浄瑠璃三味線とクラシック音楽による初めてのコラボ

三味線とクラシックのコラボは「沙羅璃（しゃらり）」（2006 年、津軽三味線奏者ピエール小野とバイオリン奏者小松原未衣が結成）や津軽三味線奏者・吉田兄弟（平成 27 年度文化庁文化交流使）のケースがありますが、いずれも津軽三味線を使い、日本人が主体です。しかし今回のように、日本の伝統音楽とは無縁のヨーロッパのオーケストラと浄瑠璃三味線が共演するのは初めてです。津軽三味線ではなく浄瑠璃三味線が採用されたのは、大坂の城下町の繁栄を描くのに上方の伝統音楽が不可欠だったからです。

【定 員】 2,500 名 【対 象】 どなたでも可（チケット購入者のみ）

【主 催】 関西大学

【後 援】 オーストリア大使館、在大阪オーストリア共和国名誉総領事館、
オーストリア・シュタイヤマルク州政府、公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会

【取材申込方法】 次頁「取材に関するご案内」をご確認の上、お手数ですが 8 月 8 日（月）までに前頁のお問い合わせ先へご連絡願います。

【豊臣期大坂図屏風】

オーストリアの古都グラーツ市にあるエッゲンベルク城に伝わる「豊臣期大坂図屏風」は、同城「日本の間」の壁面を飾る屏風絵で、現在は一扇ずつに分離されています。この屏風が、日本からどういうルートを通り、いつグラーツに渡ったかは不明ですが、遅くとも 17 世紀後半にはエッゲンベルク家が所有していたことが判明しています。

2000 年から 2004 年にかけて、バーバラ・カイザー博士（エッゲンベルク城博物館主任キュレーター）が修復と調査に着手され、同博士から調査依頼を受けたフランチスカ・エームケ教授（ドイツ・ケルン大学）が関西大学の招聘研究者として 2006 年に来日された際、この屏風の情報がもたらされ、関西大学なにわ・大阪文化遺産学研究中心（現 関西大学なにわ大阪研究中心）で調べた結果、現存作例の少ない豊臣秀吉の治世下の大阪城と繁栄する大坂の町並を描いたきわめて貴重な作品であることが確認されました。

八扇の画面一杯に、右（第一扇）から左（第八扇）へ、堺の宿院から住吉・天王寺・大坂をへて宇治平等院までが描かれています。画面の大半を大阪城の本丸・二の丸・三の丸が占め、望楼型の天守閣と唐門の付いた極楽橋は、イエズス会宣教師たちの証言する 16 世紀末、豊臣最盛期の大阪城を髣髴とさせます。高麗橋辺りの街並み、大川の水運、住吉社の祭礼など、平和で繁栄する大坂の都市生活が活写されています。

この屏風が取り持つ縁で、2009 年 10 月に大阪城とエッゲンベルク城の間で友好城郭提携が結ばれました。

■取材に関するご案内

- ◇ 報道受付は、8月9日（火）17：30からホール入口前にて行います。
- ◇ フェスティバルホール専用の駐車場はありません。お車でお越しの際は、近隣駐車場をご利用ください。
- ◇ 各社の社章（腕章）をご用意の上、公演中（取材中）はご着用願います。
- ◇ 公演中の撮影について（ムービー・スチールとも）
 - ・第1部はホール内（1階席）にて、自由に撮影可能です（来場者にご配慮ください）。
 - ・第2部・第3部については、ホール内での撮影は禁止とさせていただきます、1階席最後尾にある「多目的室」にて撮影いただきます（ガラス越しでの撮影となりますことをご了承ください）。
- ◇ 撮影を行わない記者の方は、ホール内（1階席）に記者席をご用意しております。
- ◇ 出演者への個別取材を希望する場合は、取材申込み時にその旨お伝え願います。
- ◇ 当日のお問い合わせは、下記連絡先までお願いします。
 - 9：00～17：00／06-6368-1131（関西大学広報課）
 - 17：00～22：00／080-3776-2513（広報課担当者携帯）